

7 県民のあゆみ

山形県広報誌
令和3年7月号
No.622

山形県広報誌
令和3年7月号

県民のあゆみ

7
No.622

奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報誌推進課
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-630-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子
県ホームページアドレス <https://www.pref.yamagata.jp/>



「リサイクル」の
この冊子は、印刷用紙の
リサイクルが
環境にやさしいです。

やまがた でん せつ 伝説 DENSETSU

やま がた けん れき し ぶん か ぶか
山形県の歴史文化に深く
かか べに ばな やま がた けん はな
関わる紅花は、山形の「県の花」
せい さん りょう に ほん いち
生産量は日本一!



紅花は、染料や口紅の元となる貴重な花です。原産地は中近東で、シルクロードを経て3世紀頃に日本へ伝えられたといわれています。山形県では江戸時代中期以降、栽培が広がり、最盛期の幕末頃の生産量は約186トンにも達しました。当時の日本各地の特産物を取りあげた「諸国産物見立相撲番付」では、山形の「最上紅花」が東の関脇に選ばれたほどです。また、同じ江戸時代に山形を訪れた俳聖松尾芭蕉も、紅花が咲き誇る風景に出会い、名句「まゆはきを 佛にして 紅粉の花」を残しました。

紅花は
紀元前からの長い
歴史を経て山形へ。
そして日本の
栽培地「？」



山形県の
紅花を全国に
広めたのは？

山形県で紅花の栽培が盛んになった理由は、恵まれた気候風土に加えて、京都など上方と行き来した紅花商人たちの活躍にありました。最上川および海路の舟運を通じて紅花を運び、帰りの船で様々な物資や京の文化を山形にもたらしました。その代表的なものが、今も県内各地に残る江戸時代の雛人形「享保雛」です。明治時代になって、紅花は、安価な外国産や化学染料の普及で一度衰退しますが、文化人などの支援で戦後に復興し、昭和57年には「県の花」にも制定、近年は生産者の努力で栽培面積が増えています。

山形を代表する景勝地「山寺」と紅花の歴史・文化が深く関わりとされるストーリーが、平成30年度に「山寺と紅花」として日本遺産に認定されました。また、紅花の栽培から染色用の素材「紅餅」をつくるまでの生産・加工技術が継承されている農業の仕組みは、農産物の6次産業化の先駆けでもあることから、平成30年度に「歴史と伝統がたぐ山形の『最上紅花』」として「日本農業遺産」に認定されました。さらに「世界農業遺産」の候補になっており、山形県の紅花は世界からも注目されています。

染色用素材「紅餅」に
加工される紅花は、
世界でも山形だけ!!

天然の紅色の
染料が取れる植物は、
世界中で
紅花だけです!

紅花についてお話を聞きした
今野 正明 さん
白鷹紅の花を咲かせる会 事務局長

紅花についてお話を聞きした
今野 正明 さん
白鷹紅の花を咲かせる会 事務局長
古より高貴な色を表す紅色の染料として、紅花は日本の伝統文化を支え、山形で受け継がれてきました。紅花は、栽培・加工を手がけてきた先人たちからの貴重な贈り物です。私たちも大切に後世に残していきたいと考えています。



- 2 県民の皆さまへ 新型コロナウイルス感染症関連情報
- 4 特集 世界に誇る山形の「精神文化」を生かして～やまがた出羽百観音による観光交流の促進～
- 8 奏であう人 郷土への愛が、仕事や活動の原動力に
- 16 やまがた伝説 紅花

世界に誇る山形県の精神文化「やまがた出羽百観音」を守り、伝えている皆さん。古くから県内各地域で大切に受け継がれてきた観音様たちが、今も訪れる人々を優しく迎え、癒してくれています。(撮影協力:最上三十三観音 第1番 若松観音)